

まちなか美術講座

宮城県美術館コレクションものがたり

今年度のまちなか美術講座では、宮城県美術館の40年以上の歴史の中で収集されてきたコレクションの特徴やつながりについてお話しています。

【会場】東北工業大学一番町ロビー2階ホール
仙台市青葉区一番町1-3-1 (TMビル)

【定員】50名 (先着順、申込不要)



結城素明《寒山凍雲》1927年
宮城県美術館蔵



長谷川利行《街景》1937年頃
宮城県美術館蔵 洲之内コレクション

10月26日(土) 13:30~15:00	東北の宮城県美術館 日本画コレクション 講師:菅野仁美 (当館学芸員)	12月14日(土) 13:30~15:00	近代絵画の風景散歩—所蔵作家の描いた場所(東京付近)を辿る 講師:加野恵子 (当館学芸員)
--------------------------	--	--------------------------	--

移動美術館 佐藤忠良展

9月29日(日)まで石巻市博物館にて開催していた「移動美術館 佐藤忠良展」は、しばたの郷土館に会場を移して10月19日(土)に始まります(展示内容が一部異なります)。関連イベントも開催しますので、ぜひご来場ください。

【会場】しばたの郷土館 資料展示館「思源閣」
(柴田郡柴田町船岡西1丁目6-26)

【会期】10月19日(土)~12月15日(日)

【休館日】毎週月曜日(ただし、月曜日が祝日の場合は翌日が休館)

【入場料】無料



佐藤忠良《帽子・夏》1972年
宮城県美術館蔵



佐藤忠良《このはずく》1970年
宮城県美術館蔵

関連イベント

■ ギャラリー・トーク

【日時】10月19日(土)
10:00~10:30、
11月3日(日・祝)
13:00~13:30
【場所】展示室

■ 講演会

「宮城ゆかりの彫刻家—佐藤忠良と小室達—」
【日時】10月19日(土)
13:00~14:00
【講師】赤間和美
(当館学芸員)
【場所】1階ホワイエ

いずれも参加費無料、時間内いつでも参加できます。(混雑状況によってはお待ちいただく場合がございます)

■ 参加体験プログラム [日時]11月3日(日・祝)

(1) オープンアトリエ「だれでも創作体験」

【場所】ふるさと文化伝承館 体験学習室
【時間】10:00~15:30(いつでも参加できます)
【対象】どなたでも
【内容】だれでも自由に、お絵描きや木工などの創作活動に取り組みます。

(2) キッズ・プログラム「シルエットクイズ&紙製スタンドをつくらう!」

【場所】ふるさと文化伝承館 体験学習室
【時間】10:00~11:30(いつでも参加できます)
【対象】概ね10歳以下のお子さんとそのご家族
【内容】シルエットを手掛かりに作品をさがします。その後、彫刻作品をモチーフにした紙製スタンドをつくります。

(3) ワークショップ「ポーズをまねよう! つくってみよう!」

【場所】ふるさと文化伝承館 体験学習室
【時間】14:00~15:30
【対象】16歳以上
【内容】彫刻作品のポーズをまねたり、新聞紙とクラフトテープを使って彫刻作品をつくってみます。

作品貸出情報

右記の展覧会に当館の所蔵作品を貸し出しています。

※展覧会の詳細は会場にお問い合わせください。

展覧会名	会場・会期
生誕130年記念 北川民次展 —メキシコから日本へ	世田谷美術館 9月21日(土)~11月17日(日)
特別展 オタケ・インパクト	泉屋博古館東京 10月19日(土)~12月15日(日)
越堂・竹坡・国観、尾竹三兄弟の日本画アナキズム	東京オペラシティ アートギャラリー 10月3日(木)~12月17日(火)
松谷武判 Takesada Matsutani	

休館中の当館の情報については、WEBサイトも併せてご覧ください

<https://www.pref.miyagi.jp/site/mmoa/>



2024年9月30日発行

RENEWAL
NEWSLETTER

お出かけ先に、会いに来て。



佐藤忠良《まげたポーズの子》1975年 宮城県美術館蔵 (「移動美術館 佐藤忠良展」出品作品)

関連イベントレポート

宮城県美術館 高精細レプリカ名作展 in蔵王

休館中の当館では、所蔵作品を最新技術でスキャンして制作した「高精細レプリカ」によって、コレクションの名作を、身近にお楽しみいただける「宮城県美術館 高精細レプリカ名作展」を県内各地(4会場)で開催しています。併せてギャラリー・トークや創作活動を中心とした関連イベントも実施しています。

今回は7月13日(土)に蔵王町ふるさと文化会館(ございんホール)で実施した関連イベントの様子をお伝えします。

各会場で実施している関連イベントには4つのプログラムがあります。

- ①オープンアトリエ「だれでも創作体験」:当館の特徴のひとつである「創作室」の活動の一端を持ち出して、お絵描きや木工など、自由な創作体験ができる場。
- ②キッズ・プログラム「まねっこお絵描き」:レプリカをじっくりと鑑賞し、お気に入りの絵をみつけて真似て描く「模写」に挑戦。描いた後は紙製の枠を付けてちょっと良いものに仕立てる。
- ③ギャラリー・トーク:当館担当学芸員が作品解説やレプリカの仕組みなどについて説明。
- ④ワークショップ「レプリカの仕組み実験」:パノラマ撮影機能を応用して風景をスキャンするような撮影法を試したり、異なる水平レベルで撮影した写真を目線の高さの部分だけを切り貼りしたりした後、それぞれの画像を見ながらレプリカの作成プロセスの一端を追体験。

この日会場となった蔵王町ふるさと文化会館(ございんホール)では、10時の開場と同時にたくさんお子さん連れのご家族がいらっしやり、午前中のキッズ・プログラムやオープンアトリエは大いに賑わいました。午後のギャラリー・トークでは、トークをお目当てにご来場いただいた熱心な美術ファンの姿が見受けられました。レプリカの仕組みを体験できるワークショップには、ト



「ギャラリー・トーク」

参加者からは「お話を聞くと絵を見るのが面白くなりますね」といった感想がありました。

ク後にそのままご参加いただいた方もおり、実際にレプリカ作成の疑似体験をしていただくことで、レプリカの仕組みへの理解が深まったようです。

展示会最後の巡回先は丸森町(丸森町資料展示収蔵館まるもりふるさと館)。関連イベントは10月5日(土)10時から16時まで開催予定です(※オープンアトリエはお絵描きと工作のみ。木工作はできません。ギャラリー・トークは13時から実施します)。いずれのプログラムも参加は無料です。ぜひ、お越しください。

(教育普及部 郷泰典)



オープンアトリエ「だれでも創作体験」
木を扱う創作活動は、どの会場でも大人気。子どもたちの思わぬ発想には、目を見張るものがあります。

キッズ・プログラム「まねっこお絵描き」
子どもたちは時間を忘れてじっくり作品と向き合っていました。色の塗り方にまでこだわってまねっこする姿も。

ワークショップ「レプリカの仕組み実験」
写真を切り貼りするアナログな手法で、レプリカ作成の仕組みについて理解を深めてもらいました。

響きあう絵画 宮城県美術館コレクション カンディンスキー、高橋由一から具体まで



ヴァシリー・カンディンスキー
《E.R.キャンベルのための壁画No.4》
の習作(カーニバル・冬) 1914年

長期休館の機会を生かして、おなじみの作品たちが宮城から全国に旅立ちます。

コレクションの原点となった高橋由一に始まる、近代日本の洋画。具体美術協会のメンバーなどの、多彩な個性がリードした戦後の前衛美術。カンディンスキーを筆頭に、20世紀初頭のドイツで展開した表現の革命。本展示会では、いつもコレクション展示に並ぶ、当館の「顔」と言える作品たちを、各地の美術館でご覧いただけます。

タイトルは、カンディンスキーが芸術の本質と見なした「内なる響き」からとりました。彼は、どんな形や

色も固有の「響き」を宿しており、それらが織りなす交響が、見る人の精神を揺さぶる力、すなわち絵画の質に関わると思えました。この理論は、抽象絵画を成立させる支えになったほか、音楽や詩もまた、音や言葉のもつ「響き」の集まりとして同じ尺度で捉えることで、異なる芸術を横断する、新しい表現の扉を開くものでもありました。

さまざまな個性をもつ作品たちが、それぞれの土地や美術館と響きあうとき、どんな魅力が生まれるのでしょうか。初めての方も、いつも親しまれている方も、お近くにお出かけの際には、ぜひご覧ください。

神戸ゆかりの美術館 2024年10月5日(土)~2025年1月26日(日) 久留米市美術館 2025年2月8日(土)~5月11日(日)

キュレ=ターズ・コラム

貸出から展示まで

前号は、貸出し先との間の輸送や展示・撤去の安全な遂行を見届けるクーリエについての話題でした。今回は、そうした作品を貸し出す側の目線からのエピソードを一つ。

作品を貸借する時、何より第一にされるのが作品の安全です。借りる側と貸す側双方にとって作品の点検作業は、殊に集中力を要する緊張の時間でしょう。運搬や展示の前後に都度、その過程で作品状態に異常が生じていないか現状を確認するため、そして貸借前の点検においては、輸送や展示中の安全確保のための情報を事前に把握し、必要な準備や対応を行うために、点検は大切な作業です。

先日の「絵本のひみつ展」に貸し出した絵本原画作品《おばあさんのすずーん》は、透明なフィルムに描かれたA4サイズほどの作品ですが、実際はさらに倍以上の大きさの透明フィルムを台紙とし、その上に貼りつけられています。また、様々な硬さの鉛筆を使い分けた繊細な表情を表現の要とするこの作品は、描画面に梱包材が擦れたりしないよう、取り扱いに細心の注意が必要です。ほかに作品に使用されたテープの経年劣化も観察が必要と判断しました。そうした情報はその場で共有かつ調書に記して伝

達するほか、展示立ち合い時にも念を押して伝えます。

貸出し先の美術館には事前点検で得た情報を踏まえ、最適な展示ケースを準備してもらいました。加えて現場で実際にケースを見て、展示面に白紙を帯状に敷き渡し、その上に本作を展示することを検討しました。そうすることで展示一連における諸々の懸念事項に対処すると共に、透明フィルムである本作の輪郭は引き立ちます。作品そのものの鑑賞に、より集中が向けられるよう、展示効果の向上も図りました。(学芸部 菅野仁美)



「絵本のひみつ展」(ひろしま美術館)における富山妙子《おばあさんのすずーん》の展示

日々、学芸員。

皆さんはお休みの日をどのように過ごされていますか。お仕事から離れ、趣味のスポーツや読書などを楽しむ、お友だちと食事をする…、溜まった家事をする、なんていう方もいらっしゃるでしょうか。私たち学芸員も、もちろん好きなように休日を過ごし、リフレッシュしています。しかし、多くの学芸員は、おそらく完全に仕事を離れることはできないのではないかと思います。私も、そう。というのも、平日は時間が取れない分、休みの日こそ、ギャラリーや他の美術館を訪れるチャンスなのです。私は現代美術

に関心があるので、気になる作家さんの展示があれば、地元だけでなく県外にも遠征(?)します。せっかくだけなら、と付近の他のギャラリーなども巡るうち、気づけばお昼も食わずに一日中歩きっぱなし…ということもしばしば。現在子育て中のため、時間、体力とも限られた中ですが、最新の動向をできるだけ自分の目で確かめるようにしています。たくさん作品を見続けることで、力のある作品を見抜く目が育つと考えているからです。公私を問わず展示会行脚を積み重ね、未知の魅力的な作品に出会ったときは、本当にうれしいものです。地道な目の鍛錬が「学芸員」としての私を支えています。(学芸部 松崎なつひ)